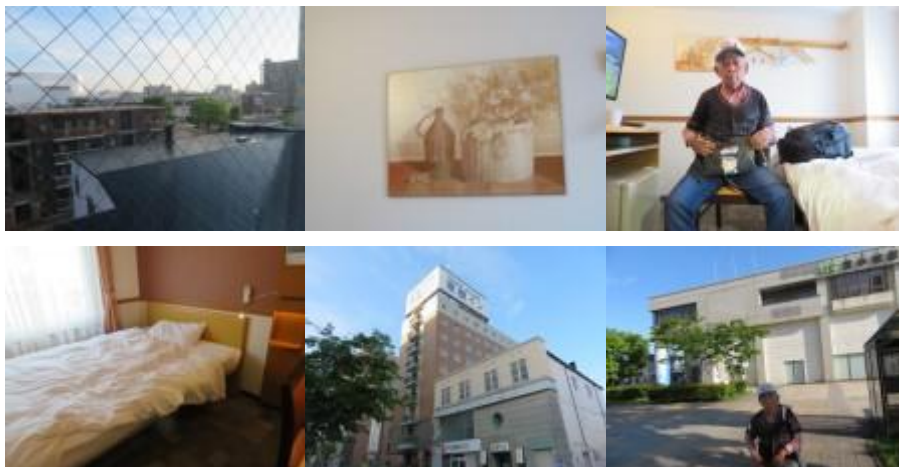


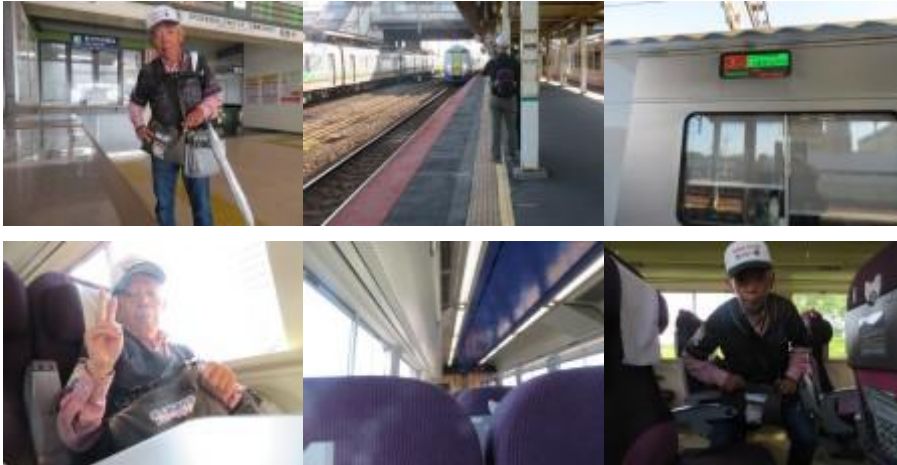
第4章 長万部～東室蘭

第1節 8日目：6月18日（水）：長万部～小幌 快晴

2025年6月18日（水）快晴、室蘭本線の旅の8日目は、長万部から小幌までの営業キロ17.5kmに挑戦する。今回の旅を3つの区間に分けて挑戦する。すなわち、第1弾が岩見沢～苫小牧（75.8km）、第2弾が室蘭～苫小牧（65.0km）、そして第3弾が長万部～東室蘭（77.2km）で。しかし、今回の区間は本日から6月21日（土）までの4日目で、一日当たりの平均営業キロは19.3kmと20km未満であったので精神的には楽な区間と思われたが、さにあらず。それは、静狩～小幌（こぼろ）～札文の区間が難関中の難関で、小幌駅立ち寄りに、命がけで臨む区間であったからである。熊の出没するリスクはあるし、国道36号線から小幌駅まで山道を下る公の道筋がないためである。来る日も来る日もネットで情報収集した結果、ある情報源に辿りつき、自己責任の下立ち寄りに挑戦することにする。朝食は昨夜買ったおにぎりで済ませ、苫小牧6時44分の北斗2号で長万部駅まで移動する。途中、東室蘭駅のみ停車し、長万部駅までノンストップで。長万部駅界限には、2021年6月19日（日）～6月21日（火）、ホテルエクセルインで3泊宿泊したので懐かしいエリアであった。トップページでご紹介した通り、当初はこのホテルで4泊宿泊の予定であったが、北海道新幹線工事に負荷を要し、使用できない旨の連絡を受ける。



※7 泊宿泊した東横インを後にする



※いざ長万部へ





※長万部駅

本日の各駅舎到着時刻は次の通り。

長万部(8:17)～静狩(10:53)～小幌(14:07)

①本日はホテルが苫小牧から東室蘭になる関係で重いリュックを背負っての移動となる。しかし、天や神のご加護を得て、快晴で最高のコンディションとなった。懐かしい長万部駅界隈を種々のアングルで撮影後、今回の旅の最長区間（10.6 km）である静狩駅を目指す。8時27分、国道37号線の起点に到達する。ここから右手に太平洋海岸に沿った道筋を歩く。旭浜を經由し、8時31分、室蘭88 km、洞爺湖町44 kmと記した標識前を通過する。直ぐ近くに長万部終末処理場があった。国道37号線には国道230号と併記していた。8時40分より、295歩ある新長万部橋を渡る。8時44分、長万部（起点）から1 km地点に到達する。9時8分、函館方面の特急とすれ違う。9時10分、室蘭84 km、洞爺湖町40 kmと記した標識前を通過する。9時12分、苫小牧方面に向かう特急とすれ違う。9時37分、長万部から5 km 地点で前方にある山が近くに見えるようになる。9時23分、当初は東室蘭から長万部まで電化区間と持っていたが、左手踏切付近で非電化と判明する。しかし、この界限は複線となっていた。9時43分、長万部町静狩の地名を見て、静狩駅が近いと感じる。10時7分、長万部から7 km 地点を通過。10時20分、室蘭79 km、洞爺湖町35 kmと記した標識前を通過。10時32分、国道37号線から分岐する幹線道路に方向転換する。10時37分、30歩ある静海橋を渡る。やっと、静狩駅には10時53分に到着する。



※静狩駅への路



※静狩駅



※静狩駅

②10時58分、木々からウグイスの鳴き声を耳にする。静狩の住宅街を歩き、11時3分、静狩道路踏切を横切り、鉄道の左側となる。小幌駅に向かう線路はトンネルに向かって続いていた。途中、トンネル工事をしている現場があり、沢山のトラックと対面する。坂道を上り、国道37号線には11時23分に合流する。11時37分より、今回の旅で初めてタオルを首にかける。11時45分、室蘭74km、洞爺湖町30kmと記した標識前を通過。11時53分、長万部から13km地点に到達する。11時58分より、638歩ある静狩トンネルを通過する。トンネルは火照った身体を冷やしてくれ快適な気分となる。12時7分、このトンネルを出ると黒松内町東栄とあった。12時10分、長万部から14km地点に到達。この界隈に黒松内市街への案内板があった。12時19分、44歩ある大成橋を渡る。12時40分、長万部から16km地点に到達。小幌駅が近いと察知する。すなわち、教えて頂いた橋と目印トンネル。12時43分、悠遊バスが通過して行く。13時10分、室蘭69km、洞爺湖町25kmと記した標識前を通過する。13時10分、長万部から18km地点に到達する。



※静狩駅界限



※小幌駅方面レール、静狩駅方面レール



※静狩トンネルまでの路

13 時 15 分、黒松内町から長万部町となる。13 時 17 分より、232m ある小幌橋を渡る。13 時 24 分より、225m ある礼文華橋を渡る。この橋から風光明媚な太平洋が登場する。同時に教えて頂いた礼文トンネルが登場する。それ故、この風光明媚な山間を下った先に、小幌駅があると察知する。このトンネル前で長万部町から豊浦町となる。この地点で長万部から 19 km とある。



※礼文トンネルまでの路

13 時 30 分より、重いリュックを背負いながら、足元が悪い山道を下る。如何にも熊が出没しそうな環境であった。鈴を鳴らしながら何度も笛をピーピー吹きながら山道を下る。10 分位歩いた先から橋のない小川にぶつかる。足元に注意しながら川沿いを歩く。途中 1.5m 位の川幅にぶつかり渡るのに苦労する。リュックを背負っており、よろよろしながら、傘を杖替わりにして対処する。このようなことを繰り返しながら、やっと 14 時 7 分、小幌駅に到着する。今日はもしかすると自分の命日になるかもしれないと覚悟で臨んだ。しかし、天や神のご加護、両親をはじめとする先祖にも守られ、無事踏破でき、最高の気分となる。同時に”2 万キロ目指し頑張り”と天命があったと錯覚もする。しかし、明日同じルートで坂道を上るのは色々リスクを伴うので、静狩～礼文トンネルまで歩くことで代用する。



※国道 37 号線から獣道を下る



※小幌駅

次の東室蘭行きは15時39分である。1時間半位待ち時間がある。感動の余り、この待ち時間を活用して、家内・情報源でお世話になった方に電話連絡、そして友人にSNSやSMSを発信しようとするが、全く電波の影響でNGとなる。それ故、小幌駅界限を散策後、小幌駅で休息をとることにする。休息中、ペットボトルが無くなり、喉がからからとなる。途中、苫小牧方面の特急が通過して行く。15時6分、長万部行きの列車がやって来る。ここで乗り鉄の方が数名下車する。おそらく小幌駅界限を撮影後、15時39分の列車で東室蘭方面に戻るプランであろう。2名の静岡からやって来たという若者と話す機会を得る。チラシを手渡し、今回の旅について語ると、驚いていた。特に、国道37号線から小幌駅の立ち寄りには驚いていた。退屈な時間もあっという間に過ぎ去る。



※乗り鉄ファンがやって来る

③15時39分の列車で東室蘭駅を目指す。東室蘭駅には16時54分に到着する。西通りを通り、ホテルには17時26分に到着する。汗を流した後、ホテルで紹介を受けた居酒屋”まんまる”で本日の疲れを癒す。



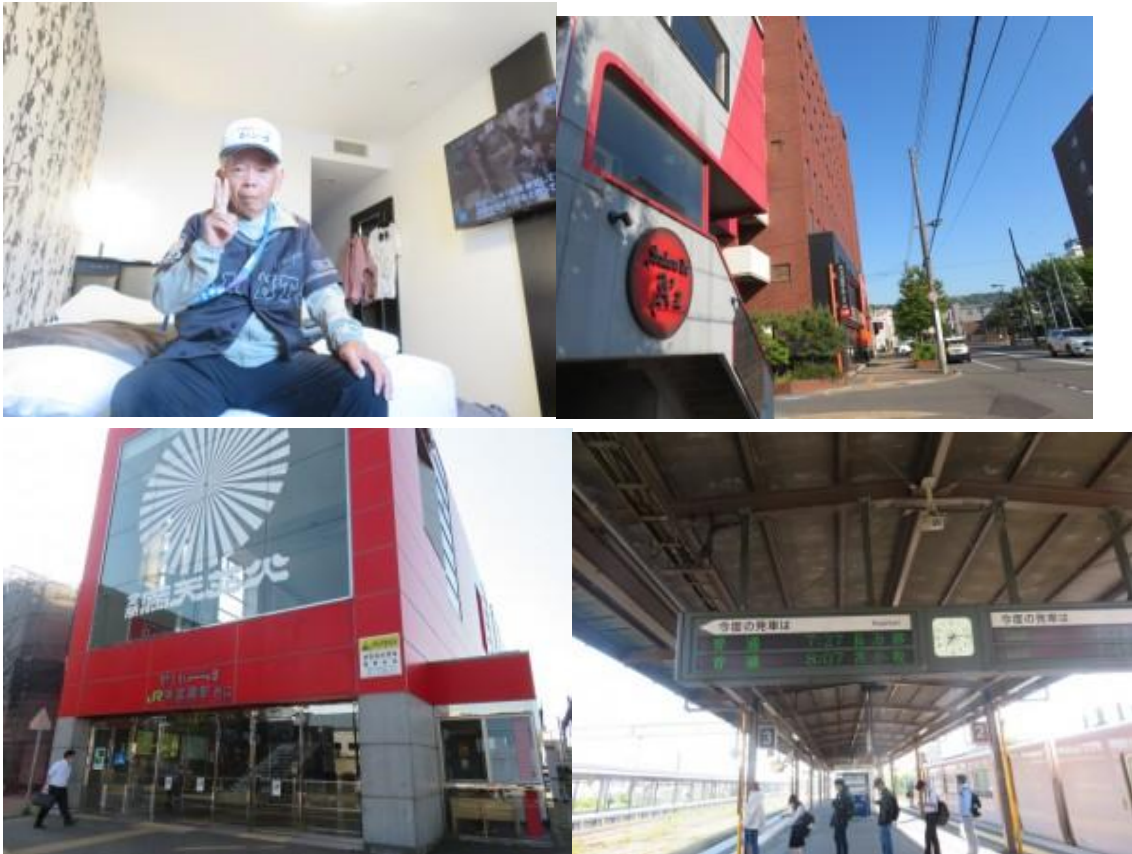
※東室蘭駅、アパホテル



※居酒屋”まんまる”で本日の無事に祝杯！！

第2節 9日目：6月19日（木）：静岡～豊浦 快晴

2025年6月19日（木）快晴、室蘭本線の旅の9日目は、静岡から豊浦までの営業キロ 25.5 kmに挑戦する。本来ならば、小幌から豊浦までの 18.6 kmでいいのであるが、小幌駅から国道 37 号線までの山登り区間に色々リスクを感じ、“急がば回れ”の諺を思い出し、約 1.5kmのところを 6.9 km歩くことにする。ホテルで朝食をとり、東室蘭発 7 時 27 発の列車（1 両編成）で静岡駅を目指すことにする。今日は、昨日と一転に重いリュックも背負わず、リスクの少ないことから、心身共にリラックスして臨むことができる。



※東室蘭駅へ



※小幌駅、静狩駅界限



※静狩駅

本日の各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。昨日歩いた静狩駅から礼文トンネルは記録を篤愛しながら歩く。

静狩(8:44)～礼文トンネル(11:09)～礼文(13:03)～大岸(14:28)～豊浦(16:58)

①静狩駅でサラリーマン風の方が1名下車する。8時50分、昨日と同様、木々からウグイスの鳴き声を耳にする。8時53分、静狩郵便局前を通過。9時、小幌駅踏破の情

報源の方にお礼の電話をする。9 時 13 分、国道 37 号線に合流する、9 時 30 分バスと対面する。9 時 43 分、静狩トンネル前に到達する。10 時 10 分、毛虫をデジカメに収める。11 時 8 分、小幌駅界限に差し掛かる。昨日に比べ 13 分短縮できる。



※静狩郵便局、道路に毛虫



※この谷を下った先に小幌駅（礼文華橋より）



※礼文華橋より



※右の道筋を下った先に小幌駅あり

②11時9分より2,214歩ある礼文トンネル（1,330m？）を通過する。11時33分より312mあるトンネルを歩く。11時34分、礼文華という地名で室蘭66km、洞爺湖町21kmと記した標識前を通過する。11時47分、長万部から22km地点に到達する。11時48分より、207歩ある洞門を通過する。11時52分より、191歩ある美乃覆道を通過する。長万部から23km地点で12時のサイレンを聞く。12時15分、27歩ある礼文橋を渡る。12時21分、豊浦町礼文華で国道37号線から分岐する道道609号線を歩く。12

時 28 分、礼文 2 km、大岸 6.3 kmと記した標識辺りで J R 線を潜り、鉄道の右側となる。12 時 43 分、右手には水田が広がっていた。12 時 55 分、壊れた船を見かける、12 時 58 分、礼文湯便局があった。礼文駅には 13 時 3 分に到着する。



※礼文駅への路



※礼文郵便局



※礼文駅、メモ帳にメモする

③13時23分、礼文華生活館前を通過。13時26分、大岸まで4kmとある標識前を通過。13時30分、右手に礼文華港、左手に礼文浜トンネルあった。13時52分より、241歩あるチャストンネルを通過する。14時より、139歩あるカムイチャストンネルを通過する。14時5分、海岸線上に砂浜がある。14時7分。JR線を潜る。大岸駅には14時28分到着する。大岸駅の道筋は風光明媚な箇所が多々登場した。



※大岸駅への路



※大岸駅

④大岸駅から国道 37 号線に合流するまでの道筋は複雑であった。ナビがなければ迷いに迷ったであろう。ナビのお陰で迷わず国道 37 号線に 15 時 5 分合流できる。15 時 2 分、高速道路下潜った先にあった。15 時 8 分、室蘭 56 km、洞爺湖町 12 km と記した標識前を通過。15 時 12 分、12 歩ある藤重橋を渡る。15 時 30 分、山道となる。15 時 43 分より、豊泉トンネルを通過する。15 時 30 分、長万部から 34 km 地点に到達する。海が近いのを感じる。15 時 52 分より、109 歩ある高岡第 1 トンネルを通過する。15 時 54 分より 129 歩ある高岡第 1 トンネルを通過する。15 時 57 分より、89 歩ある高岡第 3 トンネルを通過する。16 時 6 分、前方に豊浦町の街並みが登場する。16 時 7 分、JR 線路は右手下にあるのを確認する。14 時 19 分、国道 37 号線から分岐した道筋を歩く。その分岐した交差点に豊浦町噴火湾展望公園があった。16 時 26 分、JR 線下を潜り鉄道の右側となる。16 時 27 分、渚パークゴルフ場入口あった。16 時 30 分より、152 歩ある豊浦歩道橋（貫気別川：ぬきべつ）を渡る。16 時 37 分、ふるさとドームがあった。16 時 53 分、豊浦神社前を通過。豊浦駅には 16 時 58 分に到着。



※豊浦駅への路



※展望公園、ふるさとドーム、豊浦神社



※豊浦駅



※豊浦駅

⑤東室蘭から2両編成の長万部行き（17時20分豊浦発）がやって来る。豊浦駅で切り離し、先頭の1両は長万部行き、後ろの1両は東室蘭行きとなる。別のホームで待っていたが、待てど暮らせど来ないので、階段を経由し、運転手さんに確認したのがよかった。隣のホームから折り返しで発車（17時22分）とのことであった。危機一髪でセーフとなる。本年4月のひたちなか海浜鉄道に向かう際、特急の乗車ホームを勘違いし乗り過ごした事件を思い出し懐かしくなる。東室蘭駅には18時20分到着する。汗を流した後、徳寿司にお邪魔し今日の疲れを癒す。看板に義理の父の姓名が同一の看板（佐藤幸さん）があるのに驚く。ここでも「人生とは不思議なものです」痛感する。本日も充実した一日となった。



※列車の切り離し作業（左が東室蘭行き、右が長万部行き）



※徳寿司で祝杯！！

第3節 10日目：6月20日（金）：豊浦～稀府 曇り／晴れ

2025年6月20日（金）曇り／晴れ、室蘭本線の旅の10日目は、豊浦から稀府までの営業キロ24.5kmに挑戦する。当初は豊浦から伊達紋別の区間であったが、待ち時間を有効活用するため、伊達紋別～北舟岡～稀府の区間（6.1km）を前倒しする。朝ホテルで朝食をとってから臨む。



※レストラン”雪乃花”の朝食は最高であった（4日間活用）



※豊浦駅までの移動



※豊浦駅までの移動

本日の各駅舎到着時刻は次の通り。

豊浦(8:23)～洞爺(10:20)～有珠(11:58)～長和(13:26)～伊達紋別(14:30)～北舟岡(15:30)～稚府(まれっぺ、16:23)

①豊浦駅前で種々のアングルで撮影後、洞爺駅を目指す。8時30分、33歩ある新旭橋を渡る。8時32分、旭日町踏切を横切り、鉄道の左側となる。左手に豊浦駅、右手にトンネルがあった。その先で国道37号線に出るため右往左往する。8時41分上り坂を歩き、8時44分やっと国道37号線に合流できる。8時45分、道の駅”とようら”の標識を目にする。8時48分、室蘭49km、洞爺湖町5kmと記した標識前を通過する。8時58分、豊浦町(苺のデザイン)から洞爺湖町となる。9時2分より、4,431歩あるチセストネルを通過する。9時9分、長万部から40km地点に到達する。前方、濃霧発生。9時15分より、1,103歩あるクリヤ覆道を通過する。この洞門を出ると霧が薄れていた。9時30分、室蘭47km、洞爺湖町2kmと記した標識前を通過。9時34分、ふるさとの丘バス停(道南バス)前を通過。9時39分、曇りから晴れマークとなる。その先でタンポポがあるエリアがあった。近くには道央自動車道の看板があった。9時44分、室蘭46km、伊達14kmと記した標識前を通過。10時5分、虻田神社(あぶた)洞爺湖町統鎮守の標識を見つけ、虻田神社で本日の安全を祈願する。この

神社は、虻田二ノ原道路踏切を渡った先にあった。カーネーションやアヤメがある民家の前を通過。10時14分、洞爺湖町役場と一体になった洞爺駅には10時20分に到着する。駅構内を散策後、この駅を後にする。



※道の駅”とようら”までの路



※トンネルや洞門を通過



※虻田神社への路



※虻田神社



※洞爺駅



※洞爺駅

②10時30分、道の駅”あぶた”まで2kmと記した標識前を通過。10時39分、赤川橋バス停前を通過。10時48分、45歩ある板谷橋（板谷川）を渡る。10時58分、海岸線を歩く。11時11分、道の駅”あぶた”に立ち寄り、アイスクリームを頂く。店員の方から帽子を見て「凄いですね」とエールがある。カッシーチラシを手渡し。「今回の旅は11泊12日で室蘭本線踏破の旅でやってきました」とPRさせて頂く。「頑張ってください」とエールを頂き、この場を去る。11時23分、室蘭42km、伊達10kmと記した標識前を通過する。11時27分、洞爺湖町から伊達市となる。11時41分、有珠の地名が登場する。11時50分、有珠郵便局前を通過。有珠駅には11時58分に到着する。駅備え付けの連絡ノートにメモする。



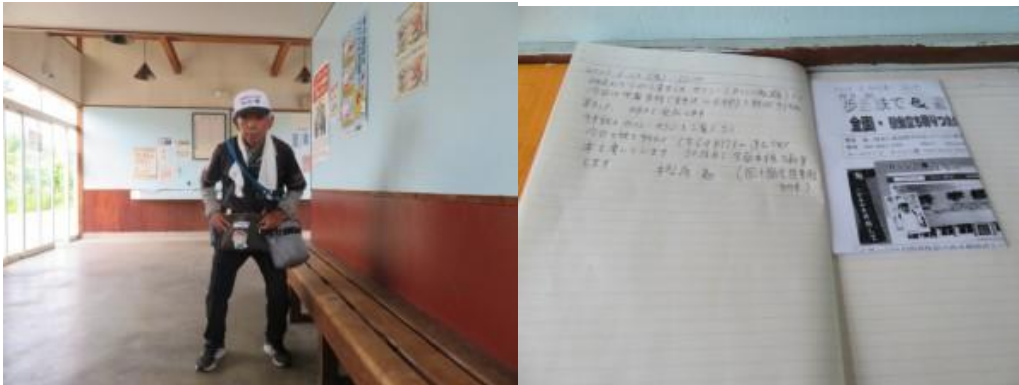
※有珠駅への路



※有珠駅への路



※有珠駅



※有珠駅

③12時10分、うす保育園の前で遊んでいる園児に、「立派な大人になり日本のために頑張れよ」と声かける。園児からも”バイバイ”のジェスチャあり。12時16分、JR線を跨ぎ鉄道の左側となる。12時20分、晴れから快晴となる。12時21分、長万部から49km地点に到達。12時28分、セイコーマートがあった。12時31分、左手には伊達カントリー倶楽部、右手にビニールハウス前を通過。坂上る。12時35分、有珠山と昭和参が見えて来る。12時36分、長万部から50km地点で峠となる。12時42分、ビニールハウス前を通過。12時45分、結城牧場があった。12時52分、長万

部から 51 km地点に若生バス停があった。13 時 3 分、函館方面に向けて列車が通過して行く。13 時 7 分、西長和バス停前を通過。長和駅には 13 時 26 分に到着する。



※長和駅への路



※長和駅

④13時45分より、326歩ある長流橋（おさる）を渡る。13時53分、長万部から54km地点に到達する。13時58分、国道37号線から南大通にある道筋に方向転換する。辺りには水田が広がっていた。14時、長万部方面に向けて列車が通過して行く。14時4分、館山下バス停前を通過。14時12分、今歩いている道筋は錦大通とあった。ナビで検索しながらくねくねした道筋を歩く。伊達紋別駅には14時30分に到着する。



※伊達紋別駅への路



※伊達紋別駅



※伊達紋別駅

⑤14時40分より、118歩ある橋を渡る。14時44分、古峯神社前を通過。14時45分より、伊達紋別線（3.4.102 錦大通）を歩く。この通りは200m位続く音符街道であった。14時鉄道沿いを歩き、14時58分、後藤通り踏切を横切り、鉄道の右側となる。暫く太平洋海岸に沿って歩く。14時59分、67歩ある東浜橋を渡る。この境界の線路は単線であることを確認する。15時6分、民家通り踏切を横切り、鉄道の左側に戻る。暫く鉄道に沿った道筋を歩く道中、袋小路にぶつかる場面にも遭遇する。右往左往してやっと15時24分、幹線道路に合流できる。北舟岡駅には15時30分に到着する。この駅から太平洋が一望できた。この駅を見ると、2013年8月15日（木）、立ち寄った予讃線の下灘駅を思い出し、懐かしくなる。



※伊達紋別線を歩く



※線路を横切り海岸線に沿って歩く



※踏切を横切り鉄道の右側に戻る



※北舟岡駅



※北舟岡駅

⑥ここから稀府までの道のり、時間との闘いとなる。3.3 kmを1時間で踏破することを余儀なくされる。つまり、営業キロが3.3kmといっても実際には4kmを超える場合もあるからだ。道道779号線を歩く。15時47分、イマリマレツ川を渡る。15時55分、谷藤通り踏切を横切り、鉄道の右側となる。稀府駅が16時10分位に見えるが、横切る踏切が見つからない。右往左往しやっと16時18分頃大西踏切を見つける。この踏切を横切って鉄道に沿って歩いた先に稀府駅（16時23分）があった。万歩計で50,791歩とあった。それにしても神経を費やした1時間であった。



※稀府駅への路



※大西踏切への路



※稀府駅

⑦稀府 16 時 36 分（3 分位の遅れ）の列車で、東室蘭駅には 16 時 54 分に到着。ホテルには 17 時 13 分に到着。汗を流した後。コンビニで夕食の食材を購入して部屋で済ませる。なお、本実健康に留意し、6 月 15 日（日）以来の休肝日とする。本日も充実した一日であった。



※16 時 36 分発の列車でホテルへ



第4節 11日目：6月21日（土）：稀府～東室蘭 曇り／晴れ

2025年6月21日（土）曇り／晴れ、室蘭本線の旅の11日目は、稀府から東室蘭までの営業キロ16.6kmに挑戦する。本日でもって、営業キロ218kmある室蘭本線の踏破が完成する日である。それ故、ウキウキドキドキしながらも気持ちも引き閉まる。予め用意した団扇を持参して臨む。今日は終着駅が東室蘭駅であったので、時間の制限もなく歩けるコースであり、気楽な行程となった。ホテルで朝食を済ませ、いざ出陣！！



※東室蘭駅へ



※稀府駅

本日の各駅舎到着時刻は次の通り。

稀府(8:02)～黄金(こがね、9:24)～埼守(10:20)～本輪西(12:12)～東室蘭(13:35)

①稀府駅で駅備え付けのメモ帳に5分位要しメモする。8時2分。黄金駅を目指しスタートを切る。8時7分、昨日苦戦した大西通り踏切を横切り、鉄道の右側となる。8時9分、道道779号線に合流する、8時11分、67歩ある黄金橋を渡る。その先で黄金町の標識を目にする。8時17分、海岸線には海遊丸をはじめとする数艘が停泊していた。8時26分、濃霧で視界が100m位で海が見えず。8時39分。カラスは見るがかもめの姿は見えず。8時57分、岩田前通り踏切を横切り、鉄道の左側となる。9時、国道37号線に合流する。9時2分、黄金神社バス停前を通過する。この境界の道筋で蟻が毛虫を運んでいる場面に出くわす。食物連鎖を痛感する。9時6分、48歩ある黄金小橋(気仙川)を渡る。9時10分、濃霧が少し晴れ、視界が500m位になる。海に小舟を見つける。9時20分、長万部から67km地点に到達する。黄金駅には9時24分到着する。



※黄金駅への路



※黄金駅



※黄金駅

②9時36分、室箱線道路踏切を横切り、鉄道の右側となる。9時43分、幹線道路に合流する。9時45分、伊達市から室蘭市となる。9時45分、千舞別橋を渡り、海岸線となる。9時46分、ここで今回の旅、初めてカモメに出会う。10時、濃霧は晴れ、視界100%の薄曇りとなる。10時2分、磯で魚釣りしている場面に出くわす、10時11分、崎守臨海公園前を通過。高台にある崎守駅には10時20分に到着する。この駅はトンネルの間にあった。トンネルとトンネルの間は150m位であった。また、この駅は15m位道路から上がったところにあった。



※やっとカモメに出会う



※崎守駅への路



※崎守駅



※崎守駅

③国道 37 号線に合流しようと思い、駅前の道筋を進行するが、段差が 10m ある国道 37 号線には合流できず引き返す。10 分位ロスタイムが生じる。10 時 36 分、引き返し駅前を下った海岸線に沿った道筋を歩く。11 時 5 分、西陣屋バス停前を通過。左手に苫小牧方面に向けて特急が通過して行く。11 時 16 分、陣屋バス停辺りで国道 37 号線に合流する。11 時 26 分、室蘭駅方面に繋がる白鳥大橋下を潜る。室蘭事業所前 NEOS（株）があった。11 時 46 分、幌萌町バス停前を通過。11 時 47 分、苫小牧 67 km、室蘭 7km と記した標識前を通過。11 時 50 分、本輪西跨線橋で JR 線を跨ぎ、鉄道の左側となる。この界隈で長万部から 75 km 地点に到達する。12 時 2 分、本輪西を記した標識前を通過。本輪西駅には 12 時 12 分到着する。東室蘭に向かう列車がやって来る。



※本輪西駅への路



※本輪西駅（もとわにし）

④12時27分、明和橋を渡る。12時10分、52歩ある新本輪西橋（本輪西川）を渡る。12時37分、JR線を左手に確認する。12時41分、南高平バス停前を通過する。12時52分、高平バス停前で曇りマークとなる。12時59分、マルハン室蘭店前を通過。東室蘭の街並みに入る。13時7分、中島町を通過。13時10分、56歩ある藤橋を通過。13時22分、中島公園通りを歩く。しかし、東室蘭駅前にあるルートインホテルの建物が見えるが、なかなか到着できず、くねくねした道筋を歩き、待望の東室蘭駅には13時35分に到着する。駅前に通しかけた方に、団扇を持った記念写真を撮って頂く。万歩計は34,937歩であった。



※東室蘭駅への路



※東室蘭駅

⑤ホテルに帰る途中、13時45分、ひなた札幌ラーメンの立ち寄り、遅いランチとする。ホテルに戻り、暫く休息し、汗を流した後。室蘭の夜を締めるため居酒屋に向かう。途中、向葉公園ではお祭りが行われていた。ホテルで紹介された鮮極家（せんごくや）に立ち寄るが生憎満席では入れず。色々彷徨った結果、居酒屋”集”に立ち寄り、室蘭の夜を締める。本日も充実した一日となった。



※札幌ラーメンは美味しいですね



※居酒屋”集“



※集で室蘭の夜締める